

(早稲田大学総合人文科学研究センター主催、早稲田大学文化推進部共催)

公開講演会『源氏物語』を離れて」開催報告

2014年7月11日(金) 15:00～17:15

早稲田大学小野記念講堂

(参加者：約150名)

本講演会は、マイケル・エメリック氏(カリフォルニア大学ロサンゼルス校上級准教授)と嶋崎聡子氏(南カリフォルニア大学准教授)の両氏を迎えて、『源氏物語』をめぐる「受容」の様相を新たな視座から再検討するものであった。

まず、マイケル・エメリック氏の講演「イメージ・テキスト・ブックとしての『修紫田舎源氏』」は、単線的な受容ー反映の観点では掬い取れない『修紫田舎源氏』の特質と可能性を、合巻という書物の様式やそこで用いられた様々な趣向に即しながら明らかにした。次に、嶋崎聡子氏の講演「近世演劇空間における「源氏」表象」では、近世演劇において『源氏物語』の原典は不在であり、そのことが近世期の演劇作品に登場する藤壺や女三宮等の自由で多様な表象と密接に関わっているとの指摘がなされた。

続くディスカッションの部では、陣野英則氏(本学教授)のナビゲートによって、読者にまつわる話題や、「原典」・「受容」をめぐる理論的な問題系へも接続し議論が発展していた。来場者を交えた質疑応答でも活発なやりとりが重ねられ、非常に盛況であった。

(報告 総合人文科学研究センター助手・塩野加織)